



湖南ギターアンサンブル

第23回さざなみコンサート

第48回滋賀県芸術文化祭参加事業



2018年 10月 14日(日)

午後2時 開演

栗東芸術文化会館さくら中ホール



ご挨拶

本日はご来場くださりましてありがとうございます。今年も「さざなみコンサート」に向けて練習を重ね、皆様に楽しんでいただける選曲を心がけてきました。日頃のご支援に少しでも応えられたら嬉しい限りです。クラシック・ギターの音色をごゆっくりお楽しみください。

主催：湖南ギターアンサンブル

<http://konan.art.coocan.jp>

お問い合わせ先：鍋谷英明(代表) Tel/Fax 077-552-9228

プログラム

司会 川人千暁

第1部 ギター重奏・独奏

フルート・ギター・ベース 4重奏

① 天城越え (作曲 弦哲也、編曲 一井伸介)

「カルテットEです」 坂井孝之、一井伸介、村井教夫、辻井寿子

3重奏 ② もしも明日が (作曲 三木たかし、編曲 Yukio Kawara)

内藤悟、諏訪サチ子、武村順子

③ ミスター・ロンリー (作曲 G. アラン&B. ヴィントン、編曲 中西信明)

塚野研一、鍋谷英明、東郷安弘

④ 黒いオルフェ (作曲 L. ボンファ、編曲 高橋道生・一井伸介)

武村順子、高橋正樹、曾根紀久

2重奏 ⑤ フール・オン・ザ・ヒル

(作曲 J. レノン&P. マッカートニー、編曲 L. ブローウェル)

塚野研一、鍋谷英明

⑥ 花は咲く (作曲 菅野よう子、編曲 江部賢一)

藤本久美子、高坂勝

独奏 ⑦ 戦争ごっこ (作曲 N. コシュキン)

塚野研一

⑧ グアヒーラス (作曲: V. M. セラニート)

一井伸介

休憩

第2部 ギター合奏

⑨ パッヘルベルのカノン (作曲 J. パッヘルベル)

⑩ ひまわり (作曲 H. マンシーニ、編曲 平社保)

⑪ ある恋の物語 (作曲 C. アルマラン、編曲 平倉信行)

⑫ シューベルトのセレナーデ (作曲 F. シューベルト、編曲 新堀寛己)

⑬ 楽興の時 (作曲 F. シューベルト、編曲 A. ロッシ)

⑭ エル・ビート (スペイン民謡、編曲 大塚房喜)

⑮ 黒ネコのタンゴ (作曲 F. パガーノ、編曲 中島晴美)

⑯ 見果てぬ夢 (作曲 M. リー、編曲 秋山公良)

⑰ サバの女王 (作曲 M. ローラン、編曲 佐野正隆)

⑱ ハイケンスのセレナーデ (作曲 J. ハイケンス、編曲 高坂勝)

1st 塚野研一 (パートリーダー)、音羽忠彦、川勝豊子、諏訪サチ子、高橋正樹
菰澤勝子、村井教夫、山口瑞代

2nd 鍋谷英明 (パートリーダー、代表)、高坂勝、東郷安弘、鳥山利晴、中西和明
藤本久美子

3rd 武村順子 (パートリーダー)、五十棲康夫、一井伸介、酒徳達哉、曾根紀久
内藤悟

ベース 辻井寿子 フルード 坂井孝之

曲目解説

【天城越え】

1986年発表の演歌で誰もが知っている抒情的な曲です。編曲に当たってはどこかに和風な感じを出せればと考えました。ギターは原調の響きを大切にするため、2ポジションにカポタストを付け、演奏効果との両立を考えました。

【もしも明日が】

今から35年前にアイドルユニット「わらべ」により唄われた曲です。原曲はマンドリンやクラリネットも有りで、リズムはスイングするジャズ的一种です。こういったリズムがこの曲のようにマイナー調になると日本人の琴線をくすぐり、多くのヒット曲を生み出したといえます。

【ミスター・ロンリー】

1964年に全米チャート1位を獲得したボビー・ヴィントンの代表曲で、戦地におもむいた兵士の孤独な気持ちを歌ったものです。日本ではこの澄んだメロディを活かして、ラジオ番組「ジェット・ストリーム」のテーマ曲に長年使用され有名となりました。

【黒いオルフェ】

同名フランス映画の主題曲です。ギリシャ神話に登場するオルペウス（オルフェ）を題材にした戯曲から、ブラジル版の「ロミオとジュリエット」に変えています。オルフェがギターを弾きながら歌う同曲は（原題はカーニバルの朝）は折からのボサノバ・ブームに乗って大ヒットしました。

【フル・オン・ザ・ヒル】

1967年に作成された「マジカル・ミステリー・ツアー」という、イギリスBBC制作のテレビ映画の挿入歌です。映画に使われた曲はストーリーとは全く関係のない…、そもそもストーリーがありませんが、曲作りそのものに円熟期の余裕が感じられます。

【花は咲く】

東日本大震災からの復興支援チャリティーソングです。私たちを元気づけてくれる曲は、オリンピックメダリストの歌い継ぎ等、今も様々な人に歌われるなど合唱をはじめ様々な楽器・演奏スタイルに編曲されています。

【戦争ごっこ】

現代ロシアのギタリスト兼作曲家の作品「王子のおもちゃ」の中の1曲です。おもちゃで遊んでいた子供の王子がかんしゃくをおこしておもちゃを床に投げつけた途端、おもちゃは突然生命を持ち始め動き出します。「戦争ごっこ」はそんなおもちゃの兵隊の様子が描かれています。

【グアヒーラス】

グアヒーラとはスペインからキューバへ渡った農耕移民のことで、彼らはキューバ革命のためスペインへ焦心の中に帰りましたが、故郷のカディスに着いた頃にはすっかり元気になりキューバの明るい音楽をフラメンコに取り入れました。それをグアヒーラスといいます。

【パッヘルベルのカノン】

パッヘルベルは、バッハ一族と交流のあったバロック時代の作曲家です。カノンとは同じ旋律（メロディ）を別のパートが追いかけるように演奏する様式のことですが、このカノンは単純で明るく聴きやすく「少年時代」（井上陽水）や「クリスマスイブ」（山下達郎）などにも効果的に使われています。

【ひまわり】

1970年公開のマルチェロ・マストロヤンニとソフィア・ローレンによるイタリア映画「ひまわり」のテーマ曲です。映画のエンディングではロシアの広大なひまわり畑の光景が鮮やかに甦ります。作曲者のヘンリー・マンシーニは「ムーン・リバー」「シャレード」など多くの名曲を手がけました。

【ある恋の物語】

1955年にパナマ人のカルロス・エレタ・アルマランによって書かれたラテンのスタンダード・ナンバーで、翌年には同名の映画の挿入歌ともなりました。日本でもザ・ピーナッツ、布施明などたくさんミュージシャンにカバーされていますのでご存知の方も多いかと思います。

【シューベルトのセレナーデ】

オーストリアの作曲家フランツ・シューベルトによって1828年31歳の若さで亡くなる年に作曲されました。かつてのヨーロッパは稀に見るギター・ブームで、ウィーンの生家には使用されていたギターが展示されています。実際、この曲の伴奏形はいかにもギターの的で、歌曲王とも言われた彼の作品の中でも特に美しく代表的な名曲ですが、ギターで作曲したかもしれないと言われています。

【楽興の時】

美しい小さな街ウィーンでベートーヴェンと同時代を生きたシューベルトの作品で、これも完成を見たのは前曲と同じく1828年でした。親しみやすく即興的な性格をもった小品6曲から成るピアノ曲集です。今日は最もよく知られている単純なリズムを生かした愛らしい第3番アレグロ・モデラートをギター合奏用に編曲しています。

【エル・ビート】

スペインの南部アンダルシア地方の民謡で、今回の演奏は大塚房喜氏の編曲によるものです。出だし部分はよく演奏されるエル・ビートとイメージが違っていますが、スピード感や甘く歌う部分もあり、短い曲ですがバラエティーに富んでいます。

【黒ネコのタンゴ】

昨今、犬や猫が愛らしく登場する写真や動画がテレビやネット上を賑わせていますが、今から約50年前にもこの曲が大ヒットしたのは、微笑ましい歌詞がいつの時代も変わらない動物たちとのふれ合いを好む人々の心をつかんだのでしょう。

【見果てぬ夢】

1965年にブロードウェイミュージカル「ラ・マンチャの男」のテーマ曲とも言える歌曲で、「たとえ困難が待ち構えていても自らの夢を実現するために邁進する」という意味が込められています。日本では、現・二代目松本白鸚の舞台でよく知られていますが、1972年にはピーター・オトゥールとソフィア・ローレンの出演で映画化されました。

【サバの女王】

1967年にチュニジアの歌手であるミシェル・ローランが作詞・作曲したシャンソンですが、歌詞の内容は旧約聖書に登場するサバ(Saba)またはシバ(Sheba)王国のこととは関係がなく、別れた恋人をサバの女王に例えたものです。多くのカバーがありますが、日本ではレイモン・ルフェーブルやポール・モーリアの演奏がヒットしました。

【ハイケンスのセレナーデ】

作曲者のジョニー・ハイケンス(1904～1945年)はオランダの作曲家ですが、戦争(第二次世界大戦)などでほとんどの作品は消失し、この曲以外は殆ど知られていません。聞き覚えのあるメロディは、日本では今も一部のデパートの放送前チャイムやJRグループの客車のチャイムとして流れています。